

教材ソフト「沖縄の古典文学（琉歌編）」の概要

< テーマ設定の理由 >

高度情報通信社会へと急速に発展している現在，教育現場においても，あらゆる面にコンピュータが活用されている。平成 14 年度より導入の週 5 日制，15 年度から新学習指導要領の実施と，教育環境も大きな変革を要求されている。そのために，私達教師も地域・学校・生徒の実態に応じた教育課程の編成の工夫や授業の工夫が求められている。新学習指導要領では，古典の内容改善の要点として，『『古典総合』における古典の学習は総合的な言語能力を養う学習の一環として位置付け，『古典』の学習においては，様々な古文や漢文を通して日本文化の特質を考え，ものの見方・感じ方・考え方を広くし，将来にわたって古典に親しみ，生涯学習の基礎を培うように指導の充実を図る』（沖縄県教育委員会「教育課程編成の基準・手引」平成 13 年 3 月）とある。限られた授業時数で，指導目標を実現するには，教師は，楽しく，わかりやすい，魅力ある授業を実践し，生徒たちに興味・関心を持たせ，自ら学んでいこうという学習意欲を喚起させることが大切である。その点，授業におけるコンピュータの活用は，時代に即した有効な手段の一つで，特に本校のような日頃からコンピュータに親しんでいる商業高校においては，より効果的であろうと考える。

また，国際化の時代といわれる昨今，真の国際人として生きるには，視野を世界に広げ，国際的な知識をもつことと同時に，身近な郷土の知識の習得もより大切なことだと考える。私達郷土には，琉歌や組踊などの古典文学，古語とのかかわりや日本語の変遷をうかがわせる方言と他の地域に誇るものがたくさんある。しかし，生徒の大部分は，郷土の文学への興味・関心が低く，特に古典文学に至っては，魅力を感じていないのが現状である。以上のことから，古典学習の一環として郷土古典文学の理解に役立つ教材ソフトを作成したいと考えた次第である。

1 教材ソフト「沖縄の古典文学（琉歌編）」の作成

(1) 作成のねらい

沖縄の古典文学の琉歌及び琉球方言の学習の支援が出来るようにする。

生徒が興味・関心を持ち，主体的に学習に取り組めるようにする。

琉歌の自己学習や発展学習ができるようにする。

(2) 作成の基本方針

Web ページ形式で作成する。

操作しやすいように作成する。

興味・関心を持って学習に取り組めるように，写真，動画，音声を取り入れて作成する。

テキスト「沖縄の文学」（沖縄県高等学校障害児学校教職員組合編）掲載の琉歌を教材として作成する。

沖縄の文学や文化に親しめるように，できるだけ多くの作品（身近のものや歌碑のある琉歌など）を教材として作成する。

学習が深まるように，資料や解説を可能な限り取り入れて作成する。

発展学習や調べ学習ができるように，関係のあるリンク集を作成する。

ワークシートを活用し，学習の定着が図れるように作成する。

教師が利用しやすいように，指導案・資料・ワークシート・指導用パワーポイントなどのページを作成する。

教材ソフト作成のねらい・基本方針をもとに，ソフトの内容及び構成を図 1 のように作成した。

(3) ソフトの内容

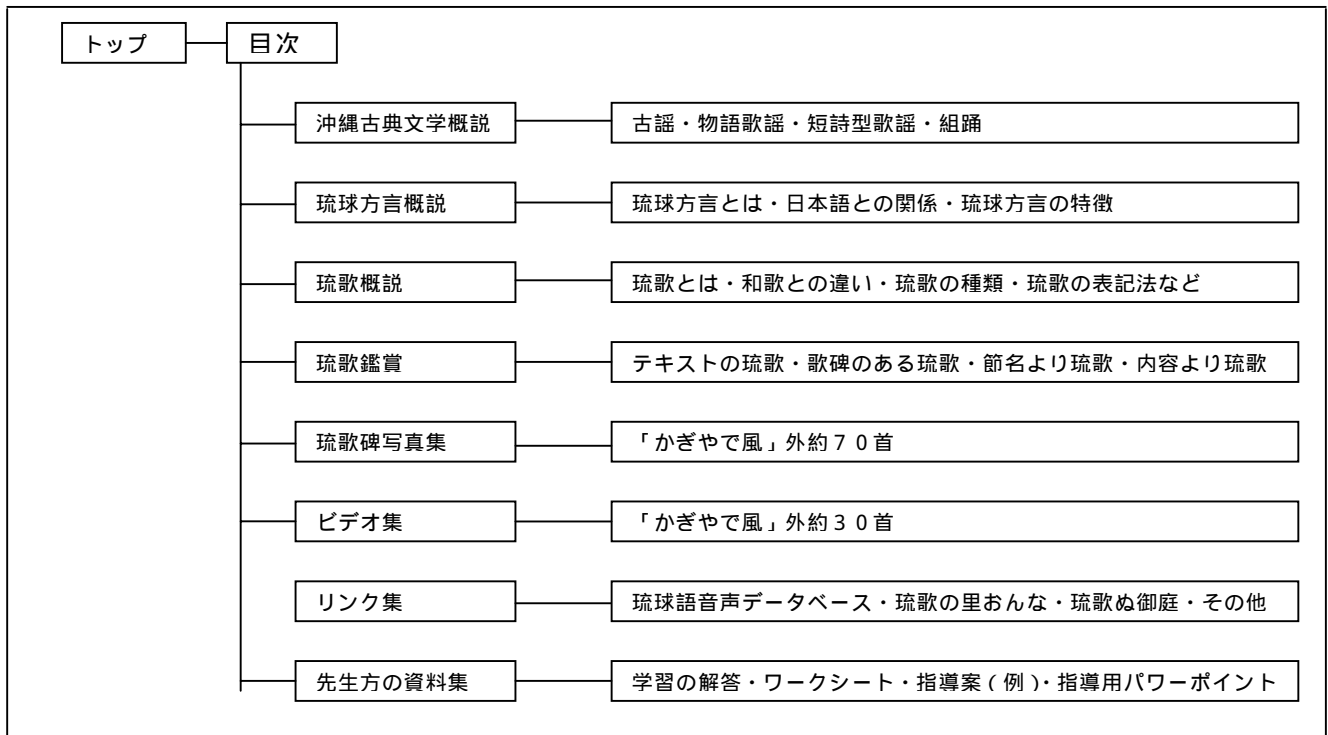


図1 ソフト構成図

(4) ソフト画面の説明

トップ画面



画面1

ソフトを起動して最初に表示されるのが、このトップ画面である。トップ画面には、教材ソフトのタイトルと内容を簡潔に記してある。「目次へ」をクリックすると、目次画面が表示される（画面1）。

目次画面

目次画面には、本ソフトの内容を大別した9項目を表示してある。それぞれの項目をクリックすると関連する画面が表示され、学習内容や素材集・資料などを見ることができるようになっている。

「琉歌鑑賞」の項目が本ソフトのメインなので、強調して表示した。また、この目次画面が、すべての学習のスタート地点にあたるので、どの画面からも戻れるように作成してある（画面2）。



画面2

琉歌鑑賞（メニュー）画面

本ソフトで取りあげた琉歌は、テキスト「沖縄の文学」掲載の琉歌66首、歌碑のある琉歌85首（重複17首）である。その約130首の琉歌鑑賞用の学習画面へは、1 テキスト「沖縄の文学」の琉歌へ・2 歌碑のある琉歌へ・3 節名より琉歌へ・4 内容（歌の分類）より琉歌へと4つの方法で移れるようにな

っている。学習の目的，方法，用途により鑑賞学習ができるように作成してある（画面3）。



画面3

琉歌鑑賞（テキストの琉歌へ）画面

本画面では，テキスト「沖縄の文学」の琉歌番号一覧表を左側に表示し，番号をクリックするとその学習画面へ移れるようになっている。また，テキストなしでも学習できるように，右側に具体的に琉歌の歌を表示し，どのような歌か確認できるように作成してある（画面4）。



画面4

琉歌鑑賞（歌碑のある琉歌へ）画面



画面5

本画面には，沖縄県にある歌碑の琉歌（85首）を市町村ごとに表示してある。また，調べやすいように北から南へ順序よく並べてある。番号をクリックすると，学習画面に移れるようになっている（画面5）。

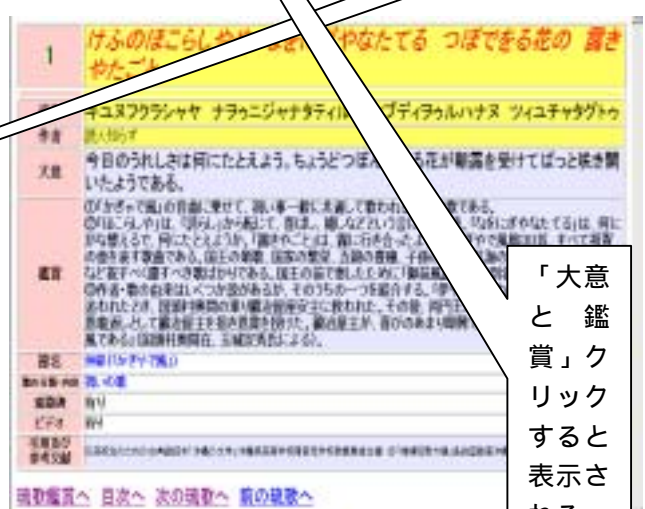
琉歌鑑賞学習画面

本画面には，テキスト番号（歌碑のある琉歌番号）・歌・読み方・学習のポイント（各歌5点程度，それぞれの歌の特徴・内容にあわせて作成）・写真（画面上に近景，クリックすると遠景を見ることが出来る）を表示してある。また，学習の手助けになるように，読み練習用の音声，大意や解説・節名・歌の分類などを記したデータ集（画面7），ビデオ（画面8），写真，方言の意味を調べるための「琉球語音声データベース」（画面9）などへのリンクができるように作成してある（画面6）。



画面6

データ画面



画面7

画面 の学習画面の「大意と鑑賞へ」をクリックするとデータ画面が映る。本画面には，歌・読み・

「大意と鑑賞」をクリックすると表示される

作者・大意・鑑賞（解説文）・節名・歌の分類・歌碑の有無・出典引用参考文献を表示し、調べ学習が出来るようにしてある。また、全てのデータ画面から、前の琉歌と次の琉歌へリンクできるようにし、調べ学習がやりやすいようになっている。

本画面は、Microsoft Access に入力された約 130 首の琉歌のデータを、ASP 技術を利用して htm ファイルに変換して作成してある（画面 7）。

ビデオ画面

学習画面の「ビデオへ」をクリックするとビデオが見られるように作成してある。ビデオは、「Ulead Video Studio 6」で編集し、MPEG 1 の高画質で圧縮した。約 30 首の琉歌にビデオ画面を設け、周囲の様子や歌の背景が分かるようにし、琉歌の内容理解が深まるように工夫してある（画面 8）。



画面 8

琉球語音声データベース画面



画面 9

学習画面の「琉球方言音声データベース」をクリックすると沖縄言語センターの Web サイトに接続す

る。ここでは、琉球方言（首里・那覇方言、今帰仁方言）の意味を調べることができる。また、音声を聞くこともでき、歌の内容理解・読みなどを高めることができる。「琉球方言」について詳しく学習したいときに利用するページである。自主学习・発展学習に活用できるように作成してある（画面 9）。

資料（写真・ビデオ・音声）集



画面 10

学習画面に使用した写真・ビデオ・音声をまとめたものが、この資料集である。この項目は、学習画面が総合的な学習を考えて作成してあるのに対して、ジャンルごとに集中して学習したいときのことを考えて設けたものである。

写真集は、サムネイルで一覧できるようにしてあり、写真上でクリックすると拡大表示される。歌碑一つにつき 2 葉～4 葉あり、近景（琉歌が読めるように写してある）遠景（周囲の様子や雰囲気をつかませる）とそれに関連するものが見ることが出来るように作成してある。

ビデオは、約 1 分程度のものが多いが、長いもので 2 分弱のものもある。中には、読み・歌がうたわ

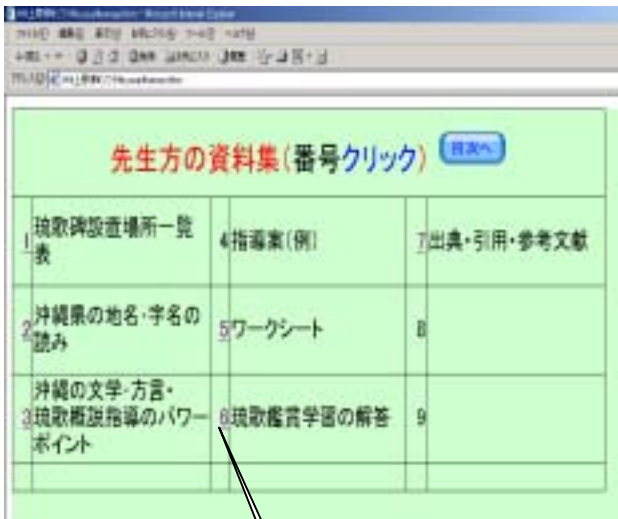
れているもの・踊りがあるものがある。琉歌が三線・舞踊とともに発展してきたこと、関わりが深いことを意識して作成してある。

音声集は、琉歌の読み学習をしたいときに役立つように作成してある。歌・読みを見ながら何度でも練習できるようになっている（画面 10）。

先生方の資料集

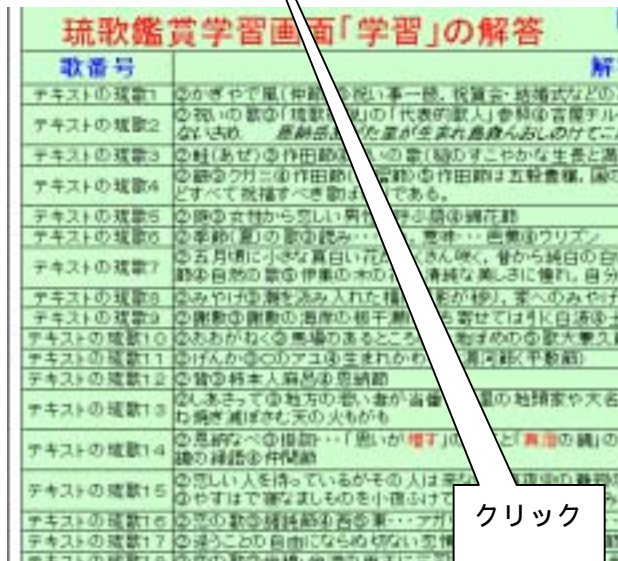
教師が本ソフトを有効に利用できるように作成したのが、この資料集である。

授業の「指導案」・「ワークシート」(PDF形式で作成)、「パワーポイント」、「歌碑設置場所一覧表」(歌碑めぐりなどの学習に役立つ)、「沖縄県の地名・字名の読み」(地名の読み書き指導に役立つ、郵政事業庁のWebサイトを利用し作成してある)、「琉歌鑑賞学習の解答」(画面 12 参照)などを掲載してある(画面 11)。



画面 11

琉歌鑑賞学習画面「学習」の解答画面



画面 12

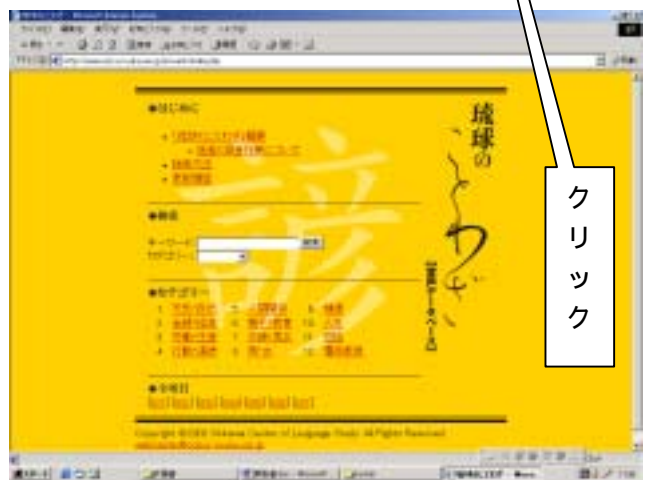
リンク集画面

発展学習を支援するために作成したのが、このリンク集である。琉球方言関係(画面 14 参照)・琉歌関係・地名(漢字)関係の3つの項目に大別される。地名の漢字の読みについては、楽しみながら学習できるようにクイズ形式のWebサイトを選んである(画面 13)。



画面 13

リンク集「琉球のことわざ画面」



画面 14

(5) 動作環境

OS

Windows98・2000・Me・XP(確認)

画面の色

High Color(16ビット以上を推奨)

画面の領域

1024×768(ピクセル以上を推奨)

Internet Explorer

5.5以降(文字のサイズ中が望ましい)

メディアプレイヤー

Windows Media Player6.0以降

PDFファイル読み込みにAcrobat Readerが必要

